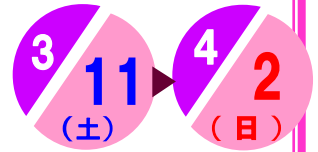




早春フラワーフェスティバル第3弾スタート！  
“**県の草花**”雪割草まつり開催！！

～一足早い春の訪れを感じる、早春の「新潟」花リレー～



花リレー

第1弾



クリスマスローズフェスタ  
2/18～3/5【終了】

第2弾開催中



アイスチューリップ展示  
2/25～3/20

第4弾



アザレア・シャクナゲ展示  
4/1～4/9

第5弾



かたくり100万株まつり  
4/1～4/9

謹啓 向春の候 皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本公園では、現在開催中のアイスチューリップ展示に加え、いよいよ今週末から**雪割草まつり**を開催します。

- 3月の毎週末に**雪割草の逸品 200点以上が並ぶ展示・即売会**を開催！
- 雪割草群生地の風景さながらの**雪割草立体展示**を、**花と緑の館**に設置！

なお、園内の**約15万株の雪割草群生地**は**3月下旬に咲き始める**見込みです！

皆様にはご多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願ひ申し上げます。

謹言

【配布先】長岡市政記者クラブ、新潟県政記者クラブ、他

【お問合せ先】

〒940-2082 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950-1

国営越後丘陵公園 越後公園管理センター 企画運営グループ 担当: まつだ松田・すずき鈴木・やまの山野・こばやし小林

電話 0258-47-8001 FAX 0258-47-8002

担当携帯 090-7847-5001 公園 HP <http://echigo-park.jp/>

## ★雪割草まつり

「県の草花」に指定されている雪割草。本公園では、屋内外で雪割草をお楽しみいただけます。

屋内では、鉢展示や押し花作品展示、屋外の雪割草群生地を再現した雪割草立体展示をご覧いただける他、雪割草苗の販売、土日祝日には押し花クラフト教室を開催します。

また、雪どけの進んだ3月下旬には、屋外の雪割草群生地で雪割草の開花がはじまります。

期 間:3月11日(土)～4月2日(日)  
時 間:9:30～16:30(4月は17:00まで)  
休園日:3月13日(月)、21日(火)、27日(月)  
会 場:はな みどり やかた花と緑の館

★3月末まで入園料・駐車料無料!

※4月からは入園料・駐車料は有料です。



### ◆3月の毎週末、200点を超える雪割草の展示を開催!

3月の週末ごとに、国際雪割草協会や越後長岡雪割草の会の会員が丹精込めて育てた雪割草の展示・即売会を開催します。屋外ではなかなか見る事のない、八重咲きなどの色とりどりの交配品種が並びます。なお、各展示会の最終日は15:00に展示を終了いたします。

越後長岡雪割草の会  
展示・即売会  
3/11(土)～12(日)

国際雪割草協会  
品評会・即売会  
3/18(土)～20(月祝)

国際雪割草協会甲信越支部  
展示・即売会  
3/25(土)～26(日)

### ◆一足早く、屋外の群生地の風景を楽しめる「ゆきわりそうりつたいてんじ雪割草立体展示」

雪割草15万株をお楽しみいただける屋外「雪割草群生地」の開花は3月下旬ですが、屋内では、一足はやく群生地の風景をご覧いただけます。

約600株の雪割草を使用し、花と緑の館内に「群生地」の風景を再現しました。

天候を気にせず、ゆっくりご覧いただけます。



### ◆ゆきわりそうぐんせいち雪割草群生地

国営越後丘陵公園では、「雪割草」の群生地を園内に再現し、雪解けとともに生命感に満ち溢れて咲く可憐な花をお楽しみいただこうと、平成13年から国際雪割草協会との協働で、毎年約1万株の苗を自然探勝路沿いに植栽しています。

毎年の地道な活動の結果、群生地の雪割草は現在約15万株となり、本公園の春の大きな魅力の一つとなっています。

毎年10月には雪割草植栽を体験イベントとして開催し、一般の方にも植栽活動にご協力いただいています。活動を通じて、絶滅が心配される雪割草を大切に作る心、豊かな自然を守る心を伝えていきたいと考えています。

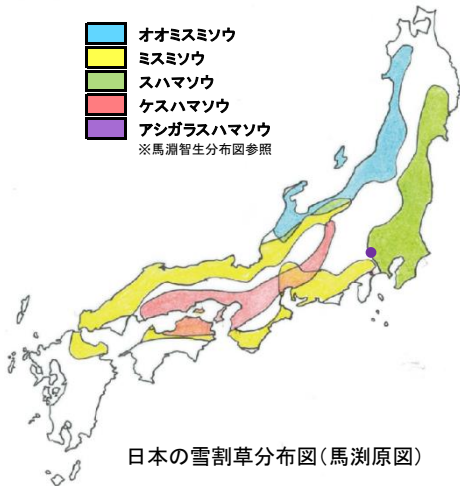


### 開花時期:

3月下旬～4月中旬

※積雪状況等によって  
変わる場合があります。

# ● 雪割草



キンポウゲ科ミスミソウ属(*Hepatica*)の園芸名で、野生種は北半球に9種類の分布が知られています。日本にはその中の1種類(*H. nobilis*)から分かれたミスミソウ・スハマソウ・オオミスミソウ・ケスハマソウ・アシガラスハマソウが自生しています。

雪割草の祖先は、3千万年前にヨーロッパ北部で誕生したと言われています。日本の雪割草は2千万年程前、大陸と地続きだった頃に渡来したと考える説があります。現在雪割草園芸の中心となっているオオミスミソウの起源は1千万年ぐらい前と言われ、被子植物の歴史からすると、比較的新しい植物と言えます。

一時は乱獲により数が激減した雪割草でしたが、さまざまな取り組みによって守り育てられ、平成20年3月には、ふるさとの環境を守る新潟のシンボルとして「新潟県の草花」に指定されました。

※参考文献 『雪割草』：岩淵公一著

『にいがたの雪割草』リーフレット：新潟県知事政策局広報公聴課

## ◆ 色とりどり、花の模様もさまざま

新潟県を中心とする日本海側の一部に自生する「オオミスミソウ」は、雪割草の中でも最も変異の幅が広く、さまざまな色や形が楽しめるとともに性質が丈夫なため、熱中する愛好家が増えています。

花は、咲き方によって「一重咲き」、「八重咲き」に分かれ、さらに「一重咲き」は、「標準花」、「雄退花(ゆうたいか<sup>ゆうたいか</sup> 乙女咲き)」など、「八重咲き」は、「二段咲き」、「千重咲き」などに分類されます。

これらの雪割草は、「国際雪割草協会 品評会・即売会(3/18.19.20)」、「国際雪割草協会甲信越支部 展示即売会(3/25.26)」、「越後長岡雪割草の会 展示・即売会(3/11.12)」でご覧いただくことができます！

### 【一重咲き】



### 【八重咲き(雄しべ弁化)】



### 【八重咲き(雄しべ・雌しべ弁化)】

